

たすきをつないだ県民駅伝

9月3日（日）、県内40市町村のランナーが郷土の榮譽をかけ、健脚を競い合う「第25回青森県民駅伝競走大会」が青森市を会場に開催されました。

鶴田町からは、唐牛秀人さん（1区）、棟方一楽さん（2区）、相馬健佑さん（3区）、尾崎勝士さん（4区）、熊谷悠さん（5区）、太田悟さん（6区）、石村きらさん（7区）、下山蓮さん（8区）の8人が代表選手として出場。日頃鍛え上げた健脚でたすきをつなぎ、アスパムから県総合運動公園陸上競技場までの8区間33.8kmのコースを走り抜けました。

意地と粘りを見せた選手の走りの結果、当町の記録は2時間7分47秒。昨年よりも順位を上げ、町の部17位の成績を収めました。



△第5区をスタートした熊谷悠選手



あなたの地区の楽しい催しや出来事などがありましたら、役場企画観光課まちづくり班（内線262）までお知らせください。

町発展への長寿の功績をお祝い

9月15日（金）、町国際交流会館で敬老会が開催され、出席者約200人が長寿を祝いました。

開会にあたり、相川町長は「今後も豊富な経験と知恵をまちづくりに活かしてほしい。今日は楽しいひとときを過ごしてほしい」とあいさつ。続いて、88歳の長寿者30人に顕彰状が贈られ、今年度100歳を迎える宮本タキさん（派立）に内閣総理大臣お祝い状が伝達されました。宮本さんは「感謝の気持ちでいっぱいです。これから頑張って長生きしたいです」と話してくれました。

町の最高年齢長寿者（平成29年9月1日現在）は、女性が105歳の三戸あつさん（松倉）、男性では102歳の伊藤惣一郎さん（掛元）です。



△相川町長より内閣総理大臣お祝い状を伝達される宮本さん（右）

50年の感謝を地域福祉へ

鶴田町社会福祉協議会（中野撃司会長）では、法人化50周年を迎えたことを記念する社会福祉大会を9月18日（月）、町保健福祉センター「鶴遊館」で開催し、出席した約200人が節目を祝い、さらなる地域福祉の向上を誓いました。

同協議会は昭和43年に法人設立の認可を受け、平成3年からは、住民自らが地域福祉活動に取り組む「幸せの種まき運動」などのさまざまな福祉活動を進めてきました。式典では、中野会長が「町民の皆さまが地域で安心して暮らせるまちづくりを目指し、100年を目標に邁進していきたい」とあいさつを述べた後、町の社会福祉活動に功績した105の個人・団体を表彰しました。



△中野会長（右）から表彰を受ける出席者



△黄金色に色づいた稲穂を刈り取る齋藤さん親子

青天の霹靂の収穫が始まる

県産ブランド米「青天の霹靂」が当町でも収穫時期を迎え、9月15日（金）、当町強巻にある齋藤拓磨さんの水田で稲刈りが始まりました。

この日は町内に作付けした185アールのうちの36アールを収穫。今年も食味ランキング「特A」獲得が期待される中、父の博文さんは「粒も大きく、最高の出来に仕上がった」と手応えを感じていました。同月20日（水）には、つがるにしきた農業協同組合鶴翔支店1号倉庫（山道）で今年産の米の初検査が行われ、齋藤さんの米は、粒状や形質を目視で確認し、機械による食味測定を行った結果、タンパク質含有率が5.6%と出荷基準を満たし、一等米であることが報告されました。

舞橋への誘客アイデアを探る

9月22日（金）、町歴史文化伝承館で「鶴の里まちづくりミーティング」が開催され、7月から鶴の舞橋周辺を案内している観光ガイドが、これまでの活動から見てきた課題やその改善策について相川町長らと意見交換しました。

ガイドは「『多くの方が訪れるのに無料で橋を渡っていいの?』という声もある」と報告。また、「開始時間前に集まった観光客に案内を頼まれて対応することも多い」「ガイド中は集合場所に人がいなくなるので、ガイドに連絡できる方法を検討してみてもいい」といった意見も挙げられました。相川町長は「ガイドの活動は大事なことで、今後もいろんな意見を寄せてほしい」と話していました。



△活動を振り返り、課題やアイデアを述べる観光ガイドの皆さん